

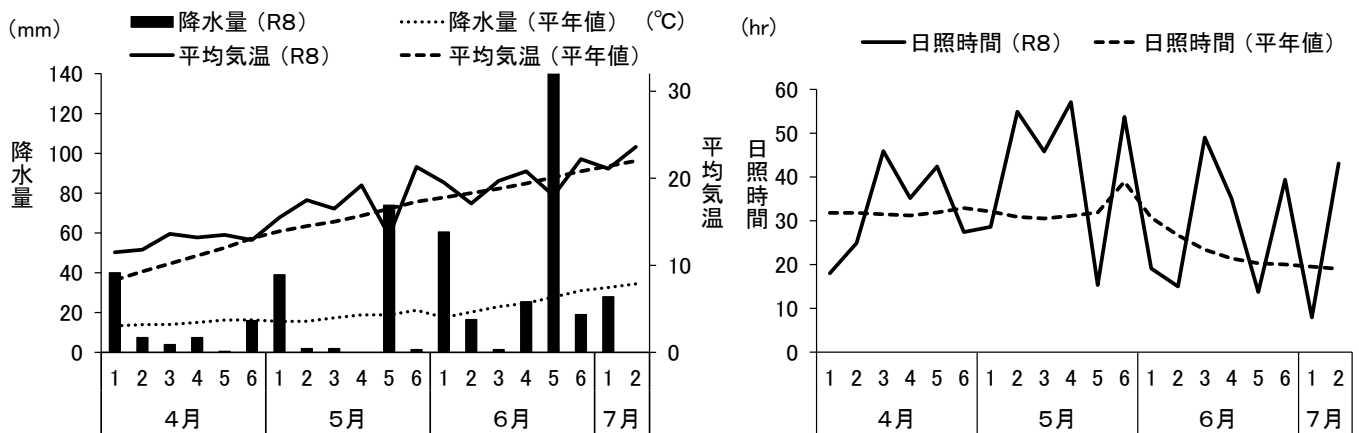
仙台稲作情報 2026 (第5号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL : 022-275-8410 FAX : 022-275-0296
http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai E-mail : sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

○栽培管理のポイント

- ▷幼穂形成期を迎えています。
▷葉色や生育ステージを確認し、必要に応じて適期に追肥を行いましょう。
▷水田周辺の畦畔で斑点米カメムシ類が多く確認されています。斑点米の発生防止のため、7月中旬までに水田周辺の草刈りを実施しましょう。

1 気象経過 (仙台 令和8年4月第1半旬～7月第2半旬)



- ・7月上旬は期間を通じて高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温は平年よりやや高くなりました。
- ・7月初めに降雨があったものの、平年より降水量は少なく、日照時間は多くなりました。

2 管内調査ほの生育状況

(1) 移植栽培

管内の移植栽培の草丈は、全体的に平年や前年より低くなっています。茎数は仙台湾沿岸のひとめぼれ、ササニシキで平年よりやや少なく、北部平坦のひとめぼれは平年より多くなっています。葉色は、ひとめぼれ、ササニシキともに概ね幼穂形成期の目安値（ひとめぼれ：38～40、ササニシキ：34～36）となっています。（表1）

表1 移植栽培における7月10日の調査結果

品種	地帯区分	調査地点		田植日	栽植密度 (株/㎡)	7/10調査			
						草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市 宮城野区	本年	5/16	13.5	55.3	347	37.0	0.54
			前年(比・差)	5/23	15.8	84%	95%	1.1	-0.37
			平年(比・差)	5/18	14.7	88%	92%	-0.5	-1.06
	北部平坦	大郷町	本年	5/24	15.3	55.2	618	42.3	0.59
			前年(比・差)	5/18	15.0	78%	140%	+12.4	0.19
			平年(比・差)	5/13	16.1	82%	118%	+7.0	-0.91
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市 若林区	本年	5/13	13.5	61.6	437	35.1	4.30
			前年(比・差)	5/18	14.7	84%	110%	+1.6	-2.50
			平年(比・差)	5/13	13.8	88%	91%	-1.9	0.70
にじのきらめき	北部平坦	大郷町	本年	5/15	19.0	64.5	669	43.2	0.03
			前年(比・差)	5/22	18.9	93%	175%	+7.2	-0.30

※平年値は、直近5か年の平均値。にじのきらめきは、昨年からの調査しているため平年値なし。

また、7月10日現在の生育調査ほの平均幼穂長は、ひとめぼれは0.5~0.6mmとなっており、間もなく幼穂形成期に達する見込みです。ササニシキは4.3mmで、幼穂形成期に達していました。(表1) (幼穂形成期：幼穂長が1mm以上の長さになった時。出穂期の20~25日前頃)

古川農業試験場の5月11日移植ひとめぼれでは、葉数は平年より0.5枚少なくなっています。幼穂は1.3mmで平年より3日遅く7月10日に幼穂形成期に達しています。(表2)

表2 古川農業試験場 生育調査結果(北部平坦 5月11日移植ひとめぼれ)

草丈(cm)			茎数(本/m)			葉色(GM)			葉数(枚)			幼穂長(mm)		
本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
61.4	86	91	662.3	119	104	41.6	+2.9	+4.2	10.2	-0.7	-0.5	1.3	-6.1	-1.5

※平年値は、直近5か年の平均値。

◆宮城県農政部みやぎ米推進課ホームページで県内の水稻生育状況等を掲載しています。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/komezukuri.html>

(2) 乾田直播栽培

仙台湾沿岸のひとめぼれ乾田直播ほ場では、茎数は多く、葉色は低くなっています。平均幼穂長は1.64mmとなっており、幼穂形成期に到達しています。(表3)

表3 乾田直播栽培における7月10日の調査結果

品種	地帯区分	調査地点	播種日	苗立数(株/m ²)	7/10調査			
					草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色(GM)	幼穂長(mm)
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/10	210	63.1	693	32	1.65

※今年度から調査をしているため、前年値・平年値なし。

3 生育ステージの予測(古川農業試験場、7月10日現在)

古川農業試験場の作況試験ほの「ひとめぼれ」の生育ステージ予測(表4)及び地域区分別の生育ステージの予測(表5)は以下のとおりです。

表4 古川農業試験場作況試験ほひとめぼれ生育ステージ予測

移植日	移植時葉数	予測日			出穂期(実測値)	
		幼穂形成期	減数分裂期	出穂期	前年	平年
5/11	2.1	7/10	7/20	8/1	7/28	7/30
5/20	2.5	7/16	7/26	8/8	8/2	8/3

表5 地帯区分別の生育ステージの予測

地帯区分	田植盛期	予測日		
		幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5/12	7/7	7/17	7/31
南部平坦	5/12	7/7	7/17	7/30
仙台湾沿岸	5/12	7/7	7/17	7/31
西部丘陵	5/13	7/8	7/18	8/2
山間高冷	5/15	7/14	7/24	8/13

注1)

幼穂形成期及び出穂期は「DVR法」による予測であり、減数分裂期は幼穂形成期の10日後としている。気温はメッシュ農業気象データ(農研機構)により、ステージ予測当日までの実況値とその後26日間の予報値を使用している。

注2)

移植時期の葉数は県生育調査ほ+古試作況試験ほ「ひとめぼれ(5/11移植)」平均の3.0葉としている。

表6 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20 日
減数分裂期	30～120mm	-10～0 cm	15～10 日

4 本田管理

○高温の影響と対策【出穂期まで】

- ・登熟初期の高温は、白未熟粒等の品質低下につながります。
→ 粒数が過多、もしくは穂揃期葉色が低いと登熟初期の高温の影響を受けやすい傾向があります。
葉色等を確認し、ほ場毎の地力に応じた施肥管理、適期追肥を行いましょう。
- ・高温は、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生を助長させます。
→ 紋枯病は、前年に多発したほ場では穂揃期に茎葉散布剤で防除を行いましょう。斑点米カメムシ類は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- ・出穂期前後は、稲体が最も水を必要とするため、間断かん水～飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。

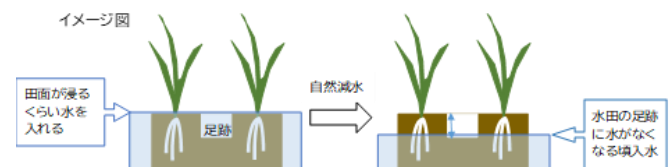
(1) 水管理

- ・生育調査ほのササニシキ及び乾田直播栽培のひとめぼれは幼穂形成期に到達しています。出穂期までは飽水管理などを行い、土壌を酸化的に保ち根の活力を維持しましょう。
- ・幼穂形成期から減数分裂期に、日平均気温 20℃以下が長期間続く場合や最低気温 17℃以下の場合には障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、その際は深水管理を実施しましょう。

※幼穂形成期：水深 5～10cm、減数分裂期：水深 20cm が望ましい

○飽水管理の方法

- 1 水尻を閉め、畦畔から漏水がないか確認する。
- 2 田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- 3 水を止めた後水尻を閉めたまま自然落水する。
- 4 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。（目安は3～5日おき）



(2) 追肥

- ・穂揃期に葉色が低下していると、高温による品質低下の影響を受けやすくなります。適切な追肥を行い葉色維持に努めましょう。（表7、表8）
- ・ほ場により生育が異なるので、幼穂長を測定し、生育ステージを確認しましょう。（表6）
- ・乾田直播栽培など、基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合、原則として追肥は行いません。しかし、高温下では窒素肥効の消耗が激しく、地力の低いほ場など、葉色が著しく低下している場合は流し込みやドローン等による追肥を検討しましょう。

表7 生育ステージにおける葉色と追肥の目安 ※葉緑素計（GM 値）

品 種	幼穂形成期（幼穂長 1～2 mm） 出穂25～20日前		減数分裂期（幼穂長30～120mm） 出穂15～10日前	
	葉色（GM値）の目安	窒素施用量 （N成分/10a）	葉色（GM値）の目安	窒素施用量 （N成分/10a）
ひとめぼれ	38～40	1.0kg	35～37	1.0kg
ササニシキ	34～36	—	32～34	1.0～1.5kg

表8 追肥の主な効果・影響

		穂数の増加	穎花数の増加	穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

(3) 病害虫防除

イ いもち病

- ・ 6月24日発表の病害虫防除所の発生予報（以下、発生予報）では、平年並の予想です。
- ・ 直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、感染のタイミングが遅れる傾向があります。ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・ BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、病害虫防除所のサイトをご覧ください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

ロ 紋枯病

- ・ 前年の発生量が平年よりやや多かったことから、発生予報では平年よりやや多い予想です。
- ・ 高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。
- ・ 前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、穂ばらみ期～出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・ 病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。

ハ 斑点米カメムシ類

- ・ 6月下旬から7月上旬の巡回調査の結果、水田周辺の畦畔で斑点米カメムシ類のすくい取り虫数が平年よりやや多く確認されており、7月7日付で防除情報が発行されています。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r8bojojoho2.pdf>
- ・ 水田周辺の雑草地や法面等では、斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、7月中旬までに草刈りを行いましょう。
- ・ 水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに行います。出穂期の予測を参考に作業の計画を立てましょう。

ニ イネツトムシ

- ・ 通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましょう。

東北地方の向こう1か月の天候の見通し（7/11～8/10）

7/9 仙台管区气象台発表より抜粋

予報のポイント

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

向こう1か月の天候

- ・ 期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。